

## 成熟期のまちづくりビジョン：包摂と支援の生活圏をつくる

1960年代を潮目に2000年続いた世界の文明の急成長期は変曲点を過ぎ、安定的な高原期に向かう緩やかな減速期に入ったという（見田宗介「現代社会はどこに向かうか」岩波新書、2018）。都市づくりについても、都市の成長する力を導くことを通じて都市空間を形づくろうとした時代は終焉を迎えつつある。特に人口減少・超高齢社会が進む日本では、今ここにある都市・農村空間を、より暮らしやすい、何世代にも渡って住み続けられるような、新しい時代の人間生活圏へと成熟させる共創的まちづくりの仕組みが必要になっている。

そもそも、日本の都市空間は、初期市街化の過程において都市計画の手が及ばなかったという点で、あるいは、適用された都市計画の水準が低かったという点で、都市計画に失敗した空間ばかりである。そうした空間を、これから「理想的」な「コンパクトシティ」に変えようとしても無理だろう。

無闇に高密度・連担のコンパクトな市街地とすることを求めない。スプロール化や空洞化の結果として生じた居住空間のスポンジ化・多孔質化を活かす。多様な移動手段を取り入れアクセシビリティを高める。身近な「第3の居場所」と、多様な交流と支援のつながりを醸す場をつくる。そうして、ながく暮らし続けられるまちやむらをつくりたい。

そのような「成熟期のまちづくり」のビジョンと方法論について、当研究室出身の若手の大学教員の皆さんを中心に、ゲスト講師の先生方の力も拝借して、広く公開で議論する連続セミナーを以下のスケジュールで開催いたします。

### ----- スケジュール(暫定版) -----

>> 2018年11月12日(月)18:30~21:30 東京大学本郷キャンパス 工学部11号館 講堂

#### 第1回：コンパクトシティのパラドックス：コンパクトだからといって暮らしやすいとは限らない

本連続セミナーの趣旨説明：(大方潤一郎)

報告1) 野澤千絵(東洋大学)：輝く都市 - タワマン街の夢と現実

報告2) 藤井さやか(筑波大学)：田園都市 - TOD型アーバンビレジの夢と現実

PD) コンパクトな居住地の○と×

>> 2018年11月19日(月)18:30~21:30 東京大学本郷キャンパス 工学部14号館 141 講義室

#### 第2回：人生百年時代の包摂と支援の生活環境をつくる：コンパクトシティの住環境再考

報告1) 後藤純・大方潤一郎(東京大学)：活力ある超高齢社会を実現する地域生活環境基盤整備

報告2) (講師未定)「歩いて暮らせるまちづくり」から「歩けなくても暮らせるまちづくり」へ

PD) 超高齢社会の生活圏域設定と施設配置論

>> 2018年12月3日(月)18:30~21:30 東京大学本郷キャンパス 工学部14号館 141 講義室

#### 第3回：スポンジ化する郊外の成熟を考える：スポンジ化を活かす／様々な取り組み事例から

PD1) 計画開発郊外住宅地の生活環境づくり：藤井さやか(筑波大学)・他

PD2) 農住混在スプロール住宅地のリモデリング：姥浦道生(東北大学)・村山頭人(東京大学)・他：

>> 2018年12月17日(月)18:30~21:30 東京大学本郷キャンパス 工学部11号館 講堂

#### 第4回：まちなかの成熟：空間変容のマネジメントと空間文化の維持再生

PD1) 大都市の下町的まちなか居住の変容：変容する木密市街地の将来像 (パネリスト未定)

PD2) 地方都市の中心市街地の再生：地域活性化と居住再生の両立戦略 (パネリスト未定)

>> 2019年1月7日(月)18:30~21:30 東京大学本郷キャンパス 工学部14号館 141 講義室

#### 第5回：都市・地域空間の共創的マネジメント手法(1)

報告1) 姥浦道生(東北大学)：広域土地利用計画のあり方

報告2) 秋田典子(千葉大学)：生活圏の中と縁辺部の緑の保全と育成

>> 2019年1月21日(月)18:30~21:30 東京大学本郷キャンパス 工学部11号館 講堂

#### 第6回：都市・地域空間の共創的マネジメント手法(2)

報告1) 村山頭人(東京大学)：都市づくりビジョンを共創するツールとしての都市マスタープラン

PD) 都市レベル・地区レベルの「まちづくり共創プラン」の作り方

全体討論) 成熟の都市地域計画体制への転換の戦略

(本連続セミナーは公開・入場無料・事前登録不要です。また YouTube 等で実況中継の予定です)